

洛南病院だより

発行 京都府立洛南病院
京都府宇治市五ヶ庄広岡谷2
TEL 0774-32-5900

京都府こころのケアセンターが開設されました。

平成28年8月31日、当院内に京都府こころのケアセンターが開設されました（設置主体は京都府）。

京都府こころのケアセンターでは、多様な精神科ニーズ（思春期、薬物依存、若年性認知症、光トポグラフィー検査等）に対応するため、専門職員（精神保健福祉士または臨床心理士）がこれらの精神科専門医療に関連した相談・情報提供を行い、必要に応じて、京都府内の専門の相談機関や医療機関をご案内いたします。



（京都新聞社提供）

相談専用ダイヤル

0774-32-5885

相談日 月～金曜日（土・日・祝日・年末年始を除く）

相談時間 9時～12時／13時～15時

費用 相談費用は、無料です。

詳しくは、京都府こころのケアセンターホームページをご覧ください。

URL <http://www.kyoto-kokoro-care.com/>

熊本地震被災地へ職員を派遣しました。

京都府では、平成28年熊本地震の被災地を支援するため、災害派遣精神医療チーム（DPAT[※]）を現地へ派遣しました。

当院からも山下院長をはじめ計9名を派遣し、避難所等で被災者のこころのケアなどを行いました。



派遣職員

- ・山下院長 (28.5.27～5.31) 植野医師 (28.5.12～5.16) 新美医師 (28.5.22～5.26)
 - ・宇野看護師 (28.5.22～5.26) 磯俣看護師 (28.5.2～5.6) 橋本看護師 (28.5.12～5.16) 井口看護師 (28.4.27～5.1)
 - ・岡島精神保健福祉士 (28.5.17～5.21) ・岩根作業療法士 (28.5.2～5.6)
- ()は現地活動期間

※DPAT（ディーパット）とは？

大規模災害等の後に被災者及び支援者に対して、被災地域の都道府県の派遣要請により被災地域に入り、精神科医療及び精神保健活動の支援を行うための専門的な精神医療チームのことです。

『防災訓練～災害食提供訓練～』をしました

3月22日（水）に、災害により電気やガスの供給が停止したことを想定した「災害食提供訓練」を7病棟と栄養管理課合同でおこないました。

訓練内容

- ・携帯用LPガスや屋外用コンロを使用して調理しました。
- ・アルファ化米（備蓄食品）を使用し、カレーライスを作りました。
- ・エレベーター使用不可のため、階段を手運びしました。





洛南病院における依存症回復支援プログラムについて

洛南病院では、薬物依存症を中心としたアディクション（嗜癖：やめたくてもやめられない行為）に対する回復支援プログラムに取り組んでいます。覚せい剤やアルコール等の物質使用障害（依存症）は、時に精神病症状をともない、入院治療が必要になることもあります。そのため、従来から、救急病棟を中心に、離脱期への関わりがありました。H27年度からは、心理士や作業療法士などのコメディカルも関わった回復支援プログラムが開始され、先行する医療機関の取り組みや、回復支援施設の皆様から学びながら、参加者と共に自分たちの‘回復の場’を育てている段階です。現在、当院で取り組んでいるプログラムは大きく3つありますので、その概要を紹介したいと思います。

まず、物質使用障害で入院された方や、外来での治療を求められた方に、全6回の**心理教育プログラム**を行います。わずかな時間ではありますが、関係づくりと、治療への動機づけを高めることを目的としています。入院では主に看護師や心理士が実施します。依存症とはどのような病気で、どのように進行するのか。特有の思考パターンや回復のプロセスなどを扱います。本命となる物質（危険ドラッグ、大麻、覚せい剤、処方薬など）についての情報提供も含みます。入院という環境下では渴求が生じにくく、「もう大丈夫」と思いがちですが、退院後には、多くの落とし穴が待ち受けていること。医療や回復支援の場から遠ざかろうとしたり、様々な正当化が生じる仕組みを‘依存症の特徴’として、あらかじめ伝えます。そして、だからこそ、つながり続けることが大切であることを共有します。心理教育は、回復への入り口として、できる限り多くの対象者に導入したいと考えています。

第二に、心理教育を終えた方へ、**SMARPP（スマープ）**というグループにお誘いします。動機づけ面接と認知行動療法をベースとした再発予防プログラムで、市販のテキストを使用しています。週に1回、グループ形式で実施していますので、テキストの内容だけでなく、一緒に参加するメンバー同士の交流も重要な治療的要素であると考えています。1週間を振り返り、クリーン（対象薬物を再使用せずに過ごす状態）を保てたことを嬉しそうに報告されたり、使いたい気持ちを正直に話されたり、それぞれの思いを持ち寄り、一緒に学んでいます。受け入れられる場を提供することで、回復への道のりを歩み続けられるベースとなることを目指します。現時点では、‘とどまる場’ですが、いずれは自助グループ等への‘つなぎの場’になることを願っています。

第三に、物質への欲求の低下を目指して、**条件反射制御法（以下、CRCT）**というプログラムも実施しています。CRCTは、パブロフの条件反射学説をもとに体系化された方法で、覚せい剤などの物質への強い欲求を抑制する効果が報告されています。物質への強い欲求を自覚し、「やめたくても、やめられない」ことを主訴とする方に、個別に導入しています。パブロフの条件反射といえば、「梅干し」と聞いただけで唾液ができる」と、広く一般にも知られていますが、CRCTを通して、その学説の奥深さと臨床的有用性について、改めて知ることになりました。条件反射学説では、動物的な脳である第一信号系という反射システムと、言葉を持つ人間のみに備わる柔軟で多方向にむかう反射システム（第二信号系）の二つを想定します。やめたくてもやめられない行動の多くは、動物的な脳（第一信号系）にドミノ倒しのような反射のつながりが定着したものです。刺激をうけると、自動的にそれを求める一連の行動が、一方向に進みます。いくら、人間的な脳（第二信号系）で止めようと思っても、倒れ始めたドミノを途中で止めるすることは容易ではありません（詳細は省略しますが、条件反射学説では、なぜ第一信号系が優位になるのかを進化の観点からも説明します）。

「わかっていても、やめられない」現象を、生理学的観点から理解することで、渴望の苦しみや、回復者の歩んだ道のりにも、思いを巡らすことにつながりました。CRCTは、具体的な作業課題を繰り返すことで、第一信号系に‘使えない’状況を根付かせ、欲求を抑制します。理屈はシンプルで、やることも単純ですが、コツコツと積み重ねていく必要があります。取り組まれた方の中には、「めんどくさいけど、効果はある」と他の患者さんに紹介された方もいました。

回復には、物質への欲求を抑制するだけではなく、「なぜ、それを必要としたのか」に向き合っていただかなければなりません。また、長期的なつながりこそ、回復支援の重要な要素だと理解しています。ただ、強い欲求そのものを抑制することによって、他のプログラムにも取り組みやすくなるのではないかと考えています。幅広い回復支援のなかの一部ですが、医療機関で担える重要な役割の一つだと考えています。

今後も、当事者の方をはじめ、他機関の皆様と共に学びながら、地域の中でひとつの役割を果たすことができるよう、励みたいと思います。

(医事課 臨床心理士 森下 淳)

厚生労働大臣表彰を受賞しました

栄養管理課小田嶋課長が平成28年度栄養関係功労者厚生労働大臣表彰(栄養指導業務功労者表彰)を受賞しました。

当院では積極的に栄養指導を実施しており、「患者さんが見える。患者さんから見える給食を!」をモットーに食事作り、栄養管理をしています。

四季折々の行事食だけでなく、病棟行事食ではバーベキュー・中華・ビュッフェ、松花堂弁当などで入院生活の中で食を楽しんでいただけるよう心がけています。



(病棟行事食の一例)

活動報告(院外学術発表)

医局

「都道府県による精神疾患の医療計画に関する分析と提言」
(精神神経雑誌118巻4号 山下 俊幸)

厚生労働科学分担研究「入院患者の権利擁護に関する研究」
(平成27年度研究報告書 山下 俊幸)

シンポジウム「病院・地域精神医学の進む道」
(第59回日本病院・地域精神医学会総会 山下 俊幸)

「精神疾患を脳の障害として考えるのは誤りか」
(科学基礎論学会(2016年6月19日~20日) 植野 仙経)

「知識の外在主義的定義による妄想の定義」
(日本精神病理学会(2016年10月7日~8日) 植野 仙経)

「ドラペトマニア論文を紹介し、その疑似科学性について検討する」
(日本精神医学史学会(2016年11月12日~13日) 植野 仙経)

医事課 相談室

「長期間反復された衝動的行動(過食、眠剤乱用)に対するCRCT」
(第五回条件反射制御法学会集会 森下 淳)

リハビリテーション科

シンポジウム「デイケアにおける認知リハ」
(第2回CEPD研究会 岩根 達郎)

シンポジウム「精神保健領域の作業療法はどこに向かうか」
(第50回日本作業療法学会 岩根 達郎)

「精神科領域における認知機能障害とリハビリテーション」
(第27回四国作業療法学会 岩根 達郎)

シンポジウム「デイケアでの認知リハの実際」
(第12回日本統合失調症学会 岩根 達郎)

「精神科救急病棟でのMCT」
(第24回日本精神科救急学会 大阪 一樹)

看護部

「衝動的に異食する患者の開放拡大への取り組み
段階的設定を利用した行動療法のアプローチ」
(第41回日本精神科看護学術集会 伊藤 栄見子)

「認知症病棟における退院支援への意識向上に対する取り組み」
(第41回日本精神科看護学術集会 三好 大作)

みんなの

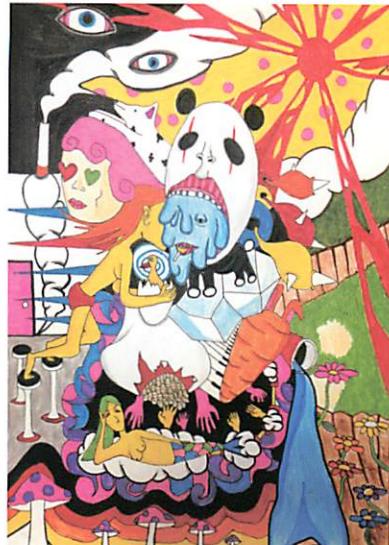
作品紹介

隙間なく色を塗り込んだ力作で、大胆さや緻密さ、独特の発想や色づかいで彼の世界が表現されています。

描く時は集中して一気に描き、時には一晩中制作に没頭し不眠になる事もあるそうです。

彼の絵画への情熱が、ご覧になった皆様に伝わればと思います。

(ディケア絵画プログラム担当スタッフ)



外来診療のご案内

◆一般外来 統合失調症やうつ病など精神科の全ての疾患を対象にした外来です。

◆認知症専門外来 「物忘れがある」「同じ話を繰り返す」などの症状のある方に、認知症の鑑別診断、行動・心理症状の治療を行います。若年性認知症外来も行っています。
(認知症疾患医療センター)

◆思春期専門外来 中学生以上18歳以下の方を対象とした精神症状や問題行動、発達障害の疑いのある方の専門外来です。

予約について

- 外来はいずれも「予約制」となっておりますので、来院の際は電話でご予約ください。
- 土曜日、日曜日、祝日、年末年始は「休診」です。(救急外来を除く。)

TEL. 0774-32-5900 平日の9:00~17:00

※電話交換手に「希望される外来名」と「初診の相談」であることをお伝えください



～私たちは、府民のこころの健康を支え、利用者の人権を守り、利用者中心の医療をめざします。～

京都府立洛南病院

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄広岡谷2 TEL/FAX 0774-32-5900

※まちがい電話防止のため、番号をよく確かめておかけください。